

2024（令和6）年7月7日

2024（令和6）年度 私立短期大学図書館協議会  
全国理事会 議事録案

日 時：2024年5月16日（木）14:00～17:00

場 所：林野会館 603 会議室

出席者：16名（敬称略）

【本部】＜近畿大学＞毛利和弘 ＜千葉経済大学短期大学部＞齊藤誠一 ＜北海道武蔵女子大学北海道武蔵女子短期大学＞木村修一 ＜前大手前大学＞前川和子＜前カリタス女子短期大学図書館＞石田孝夫 ＜前聖徳大学川並弘昭記念図書館＞林浩次 ＜新潟清陵大学新潟清陵大学短期大学部図書館＞高野聡 ＜文化学園大学図書館＞今井智子 以上8名

【地区】

[北海道] ＜北海道武蔵女子大学北海道武蔵女子短期大学附属図書館＞柳橋望

[東北] ＜柴田学園大学短期大学部附属図書館＞相場春香

[関東甲信越] ＜千葉経済大学総合図書館＞渡邊直子

[東海・北陸] ＜高田短期大学付属図書館＞大野照文、西尾綾

[近畿] ＜大阪芸術大学短期大学部図書館（伊丹学舎）＞桑田祐作

[九州] ＜香蘭女子短期大学図書館＞河野洋子、竹下真由美 以上8名

司 会：林浩次

配付資料：①議事次第、役員名簿、出席者名簿

②各地区報告書、通信等

③全国総会資料

1. 会長あいさつ

理事会の開催にあたって、齊藤会長より挨拶をされた。

2. 報告とお願い

齊藤会長より、①研究誌「短期大学図書館研究」について、各地区の研修会での講演、事例報告、またはアンケート調査を行った際には、ぜひ論稿化してほしい、というお願いをされた。また、②本協議会の加盟館が減る中であって、広告収入にあたる賛助会員（団体）が少なくなって厳しい状況にある。各地区の図書館との関係がある企業に広告を掲載していただける賛助会員（団体）の勧誘をお願い

したい。

### 3. 自己紹介

出席者 16 名の自己紹介

### 4. 各地区事業報告

北海道地区から順に昨年度の地区事業報告及び決算報告、本年度の会勢と事業計画案及び予算案が報告された。

理事館については、北海道地区と関東甲信越地区以外の地区は輪番制を採用しているが、これが苦慮している。これらの地区は加盟館が減少し、一人職場や専任職員がいないため、総会への出席が困難になっている。このような現状のなか、四年制大学を持つ学校法人が協議会運営に携わっていかなければならない。

一方、四年制大学は私立大学図書館協会に加盟しているため、私立短期大学図書館協議会を退会している。これにより地区協議会の運営が一段と厳しくなっている。四年制大学がない短期大学のみ为学校法人は私立短期大学図書館協議会しかないため、地区として休会が難しく、休会になると会費の問題が生じる。近畿地区はこのような状況に直面している。

このように加盟館の減少が問題となり、輪番制の実施も難しい状況もあって、本協議会の運営に関しては、早急な対応が必要であると、齊藤会長から発言があった。

### 5. 総会について

事業報告、決算・監査報告、新役員案、事業計画、予算案の確認を行った。

#### (1) 総会議長について

総会の議長は理事会メンバーから選出するのが恒例になっていることから、齊藤会長より本部事務局案として香蘭女子短期大学図書館の河野洋子氏の推薦があった。協議の結果、議長は河野洋子氏にお願いすることになった。

#### (2) 事業報告、決算、監査報告

事務局の林氏より 2023 年度の事業報告の後、会計担当の石田氏から決算報告があった。監査報告は監査人の今井氏から報告があった。

#### (3) 新役員の選出について

事務局の林氏より 2024 年度私立短期大学図書館協議会役員名簿(案)が示され、東北地区、東海・北陸地区の理事館が交代されたことの報告があった。その他役員については、2024 年度私立短期大学図書館協議会役員名簿案のとおり、了承された。

#### (4) 事業計画、予算

事務局の林氏より 2024 年度事業計画案の確認の後、会計担当の石田氏から予算案について説明があった。

#### 6. 全国研修会（2025 年度実施）について

#### 7. 地区情報交換会

(1) 齊藤会長から以下の 3 点について説明と提案がなされ、了承された。

##### ア. 全国研修会の残金について

昨年度の全国研修会の残金は、関東甲信越地区と本部が拠出しているのですが、本来的には残金は折半している状況である。しかし、残金は、以前から拠出金という形で、本部会計の繰越金としていた。今年度もこのような形で本部会計に繰越金として決算することを関東甲信越地区通常総会で提案したい。

##### イ. 私立短期大学図書館協議会の改革について

私立短期大学図書館協議会の課題として、交付金、補助金の見直し等がある。これらの課題に対して、協議会の改革案をまとめて、たとえば、地区はどうするのか、会計に関しても交付金、補助金をどうするのか、これらの課題を含めてプロジェクトチームを作り検討したいと考えている。このプロジェクトチームでたたき台をつくり、そのうえで Zoom を使って臨時の全国理事会を開きたいとの考えを示した。さらに、検討された改革原案を今年度中に臨時の全国総会を開いて改革を進めていくことを提案したい。

##### ウ. 研修会について

今年度は全国研修会を開催しない年で、関東甲信越地区協議会の研修会を全国に公開してオンライン開催したいとの考えを示した。研修会の内容は、生成 AI に関係するものにしたい。

(2) 前川理事から全国の会報については、地区協議会の担当者が、毎年 4 月から翌年 3 月までの事務局活動を原稿化して頂いている。地区によっては担当者が当年で交代されて、新しく担当された方が原稿を作成する。原稿依頼する時期によって、原稿作成が難しくなっている。このように会報の論稿化する時期や担当者を見直して、次年度の担当者に代わって前年度の担当者が作成するのが一番良いのではないかという提案をされたが、この事については、今後も引き続き検討することになった。

(3) 近畿地区の桑田氏から地区の資料保存方法について、近畿地区は、紙媒体の地区資料を役員館が持ち回りで保存している。近地区の幹事会で WEB サイトを使ったクラウドを活用した保存方法を取り入れたらどうかという意見があった。そう

なると、私立短期大学図書館協議会の資料として扱うことになるので、それが可能かどうかお聞きしたい。現在、近畿地区が考えているのは紙媒体の資料をデジタル化してCD-ROM化することである。いっぽう、関東甲信越協議会と本部の合同幹事会では研修会の資料や報告は研究誌や会報に掲載されるので、5年間保存とされているという報告があった。このような文書管理については、今後の課題として検討することになった。

以上